

標 題 : Diet, Metabolic Polymorphisms and DNA Adducts :
The EPIC-Italy Cross-Sectional Study
食事、代謝の多様性および DNA 付加物 : EPIC イタリア人横断研究

著 者 : D. Palli, et al. (イタリア CSPO 疫学部)

掲 載 誌 : Int. J.Cancer 87: 444-451 (2000)

要 旨 : 末梢白血球中の DNA 付加物は、遺伝子毒性剤に対する体内接触の指標と考えられ、癌リスクの可能性がある。

食事と他の個々の特徴との関連を、我々は健常な成人で調査した。

大ヨーロッパプロジェクトの一部の追跡研究 EPIC-イタリア人は 5 センターで 47,749 人の 35 - 64 歳の男性と女性を登録した : 全員が食事と生活習慣に関する個人情報および血液サンプルを提出した。

横断研究で主な 3 地域 (北部、中部、南部イタリア) 約 100 人のボランティアをランダムに選び、³²P ポストラベル技術および PCR 法を用いて末梢白血球で DNA 付加物および 4 種の代謝遺伝型を測定した。

被験者 309 人(男性 153 人)中で、72.8%が検出可能な値の DNA 付加物を有した (平均 $8.1 \pm 0.6 / 10^9$ ヌクレオチド)。

新鮮な果物と野菜、オリーブ油の摂取頻度および抗酸化物の摂取と、強い負の関連が現れた。

DNA 付加物は GSTTI 無遺伝子型の被験者で高かった(P= 0.05)。

多変量解析で研究センター間に有意差が生じた (平均値 : フィレンツェ 11.0、ナポリ 10.0、トリノ 7.2、バレーゼ 6.5 およびラグーザ 5.2)。

緯度に従う逆の季節的変動の可能性が認められた : 冬にフィレンツェと南部センター、夏中は 2 つの北部センターで付加物値は低い傾向であった。

新鮮な果物と野菜の頻繁な摂取は DNA 付加物の低い値と関連するので、癌リスクを調節する食事の役割に寄与するであろう。
